

介護中でもやりがいを失わずに働く

新しいビジネスケアラー支援入門

ビジネスケアラー
介護
調整支援
機会提供

キャリア伴走

プロジェクトリーダー
大嶋 寧子
 主任研究員



Works Report 2023

新しいビジネスケアラー支援入門

Business Career

介護中でもやりがいを失わずに働く

概要

高齢化の更なる進行により、これから日本では性別や役職の有無にかかわらず、介護をしながら働くことがより「当たり前」になっていく。しかし、仕事やキャリアに悪影響が生じることへの不安から、職場で介護について話しづらいつと感じる社員も多く、そのことが企業と社員が密にコミュニケーションをとり、その時々に必要な支援や働き方を選択することを難しくしている。本報告書は、当事者へのインタビューと2回の定量調査に基づき、介護中の社員（ビジネスケアラー）がやりがいを失わず、その時々々の両立課題を乗り越えながら組織に貢献していくことに関わる要因を明らかにし、企業が仕事と介護の両立支援をアップデートするための提言を行っている。

問題意識

これまで介護と仕事の両立支援において、介護中の社員の働きがいやキャリアの問題は主要なテーマとはなっていない。しかし、仕事やキャリアへの悪影響を懸念し、介護について上司や会社に伝えなかったり、伝える範囲を最小限にとどめる人は多く、そのことが会社・管理職と社員の両立に関わる調整

や、会社による実態把握を難しくしている。これからの仕事と介護の両立支援では、介護をしながら働き続けられることに加え、介護中もやりがいを失わずに働き続けることを視野に入れた支援を行う必要がある。

結論

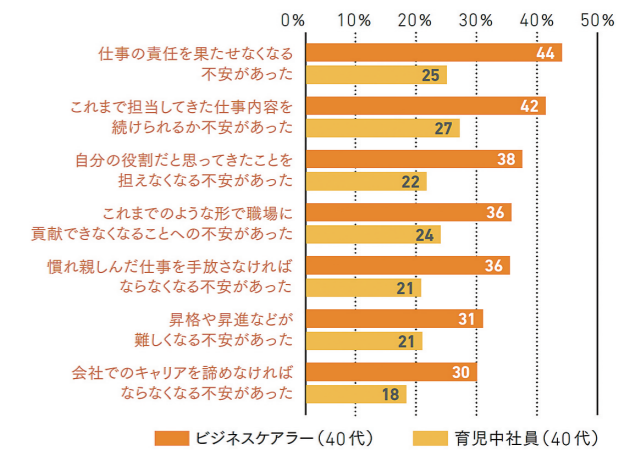
介護中の社員が直面する5つの課題

介護中の社員は様々な課題を抱えている。例えば、介護開始前に仕事と介護の両立に関わる適切な知識を得ているかは、介護開始後に早期に両立体制を築き、不安なく働く上で重要であるにもかかわらず、多くの人がその情報を事前に手にしていない。また、介護中の社員の中には介護を通じて仕事のありがたみを再確認する人が多いが、その仕事やキャリアを失う不安は育児期の社員以上に大きい。このほか、働く時間に制約がある中で仕事の責任を遂行するために、より効率的な仕事のやり方や同僚との協力関係の構築に創意工夫をこらす人が多い半面、両立のために仕事を手放す行動は意欲の低下につながりやすい。最後に、両立を相談できる職場内外の人間関係を持つことが、両立に関わる実践的な情報を入手しやすくし、今の仕事で上手くやっていける見通しを持つことを促しているが、そのような人間関係を持つ人は特に男性で少ない。

介護中でもやりがいを失わないための支援とは

以上のような課題やその克服に関わる要因からは、介護中の社員がやりがいを失わずに働き、組織に貢献していくための鍵が見えてくる。その一例が、介護中の社員の仕事やキャリアにより良く向き合えるよう管理職を支援することである。管理職がどのような支援を行うかは、介護中の社員が主体的に仕事のやり方を見直す行動を促すほかできるだけ仕事を手放さずに働き続けられる環境づくりを左右する。会社が、管理職が介護についてのリテラシーや介護中の社員が直面する課題や対話のコツ、どのような支援が本人の主体的な行動を促すのかについて学ぶことのできる研修や情報提供、管理職同士で介護中の社員の支援に関わる悩み

介護/育児開始当初の仕事やキャリアに対する不安



注) 「非常に当てはまる」と「やや当てはまる」の合計割合。
「育児中社員」は、週15時間以上育児を行うフルタイム正社員。

を共有できる機会を設けることが重要である。

会社としての仕事と介護の両立支援のゴールを「介護中も、やりがいを失わずに働き続けられること」に置き、社内に周知していくことも重要である。今後、介護をしながら働く人が大幅に増える中、介護でやりがいが失われやすい職場環境が続けば、会社の活力は低下してしまう。一方で前述の通り、介護を通じて仕事の価値を再認識したり、新たな視点を獲得する社員は少なくない。介護中もやりがいをもちながら働ける支援によって、介護を通じた社員の成長を企業の活力として取り入れる方針を示すことは、介護中の社員やその予備軍、管理職を含む全社員の意識を変えることにもつながるだろう。

Works Reportはこちら

介護中でもやりがいを失わずに働く

<https://www.works-i.com/research/works-report/2023/businesscareer.html>

